



### 塩の道 その1



△甲斐に続く道、中道往還(厚原) 謙信が宿敵である信玄に塩を送ったという有名な話があります。

# 信玄と富士

⑤

武田信玄と上杉謙信のライバル同志のエピソードは、川中島の合戦など、数多く現在に伝えられています。その中に、謙信が宿敵である信玄に塩を送ったという有名な話があります。

永禄四年(一五六一)の川中島の合戦の後、ほぼ信濃を手中にした信玄は、次に矛先を駿河の国に向けました。駿河には、既に今川義元なく、その子の氏真が国主となっており駿河を攻めるには絶好の機会でした。しかし、兩國の間には天文二十三年(一五五四)に結んだ、甲・相・駿の相互不可侵条約、善徳寺の三国同盟があります。さらに、信玄の長男義信の妻は今川氏真の妹にあたります。義信は信玄の駿河侵攻に真っ向から

反対しました。この親子の対立は激しくなり、永禄八年(一五六五)、ついに義信は謀反の罪で捕らえられ、二年後には切腹、妻も駿河へ送り返されてしまいました。この事件で、甲斐武田と駿河今川との友好関係は完全に消え去り氏真は信玄の裏切りにも等しい仕打ちに激怒し、直ちに報復措置をとりました。その一つが塩止めです。これは一種の経済封鎖で、自国の領地に海を持たない甲斐の人々には致命的な打撃でした。

暑い暑いと思っても、夜には庭の隅や畑でコオロギが鳴き、山ではスキの穂が顔を出し始めます。温室野菜や果物が出回り、季節感が薄れていきますが、自然は間違いなく模様かえを始め、季節を演出してくれます。そろそろ秋を探しに野山へ出かけたいですね。

## 富士の今と昔

④



今 空地はほとんどない。

昔 橋の先は行きどまり、梨畑がありました。



富士大橋の近くにお住まいの望月敏朗さん(水戸島)のお話。

「昔は、一面の梨畑で白い花が咲くときれいだった。夏には、家の壁が真っ黒になるぐらいセミがいたね。戦争中の食料増産で、梨畑はほとんど田んぼに変わってしまった。鉄道の踏切は今の地下道の所にあっただけ、列車の通過が多くてあかす踏切だった。昭和三十六年に大橋ができたときは、いつも通れて便利だと思ったね。」



松岡保育園年長組のお友だちは、七夕祭りに使うおみこしを作りました。製作中の子供たちの表情は、絵の具やのりだらけになりながらも、うれしくて生き生きしていましたよ。(先生)



ダンボール箱に紙を張って、ドリンク容器や花やお星さまを飾ったんだよ。七夕祭りには、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんもみんな来てくれて楽しかったよ。(園児)

### こちら編集室